においを嗅ぐしくみと嗅覚障害

監修：笠井耳鼻咽喉科クリニック　笠井 創 先生

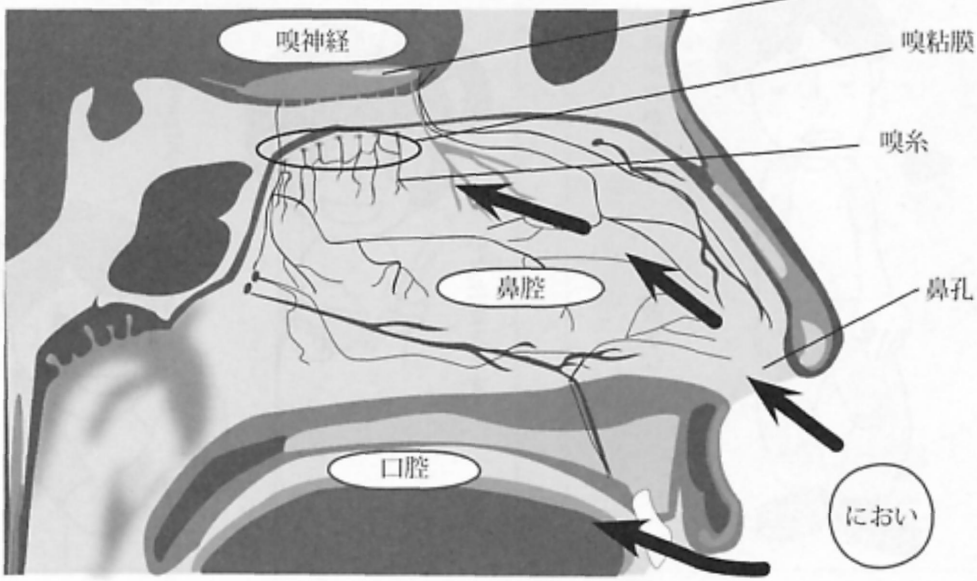
においを感じるしくみ

鼻孔（鼻の孔）の奥には、鼻腔という空洞があります。鼻腔の表面は、薄い粘膜で覆われています。この鼻腔の粘膜の一部に、においをキャッチする「嗅粘膜」があります。鼻孔から入ってきたにおいの分子は、嗅粘膜に付着します。その刺激が「嗅糸」を通って、「嗅球」に伝わり、さらに「嗅神経」を介して大脳の「においの中枢」に伝えられ、特定のにおいとして認識されます。この経路のどこかに異常があると、「嗅覚障害」が起こります。

嗅覚障害とは

風邪で鼻が詰まっているときは、誰でもにおいがわからなくなります。しかし風邪をひいていないのに、においを感じなかったり、変なにおいがするというような場合があります。それは、「嗅覚障害」が起こっているからです。たとえば鼻が詰まると、においの分子が嗅粘膜に到達できないため、においが感じられません。また、嗅粘膜や嗅神経などに異常が起きている場合もにおいがわからなくなり「においがしない、においがわかりにくい、絶えず異臭がする」などの症状が現れます。また、「においを感じないために、味もわからない」といったように味覚にまで影響を及ぼすこともあります（風味障害）。

嗅覚障害が起こる原因

嗅覚障害の原因は大半が鼻の病気です。「慢性副鼻腔炎（蓄膿症）」や「アレルギー性鼻炎」

鼻の構造とにおいを嗅ぐしくみ